



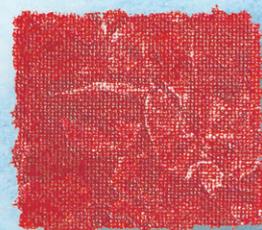
道

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.36 春号



巻頭インタビュー

伊勢田敏(国土交通省 九州地方整備局局长)

みちづくし in 佐賀2018

「わくわくドキドキ輝く道守」
～道守の一人一人が主役～

長崎の橋めぐりインフラツアー

- ・道の語り部を養成しよう
- ・長崎のまちづくりは橋の歴史にあった

道の駅×日本風景街道×道守シンポジウム

語ろうみんなで!「三つの輪」
～新たな一歩へ

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りも、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。
さあ、新しい道に一步踏み出そう。



新緑の狭霧台（大分県由布市）

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー
伊勢田敏(国土交通省 九州地方整備局局長)
- 03 Connect 図について
- 04 みちづくし in 佐賀2018
「わくわくドキドキ輝く道守」
～道守の一人一人が主役～
- 08 わたしの好きな道
自転車のまち佐賀市のシンボルロード
～紡績通り、佐大通り～
猪八重 拓郎
- 09 私たちの道守活動
- 12 長崎の橋めぐりインフラツアー
道の語り部を養成しよう
村里 静則(ながさきサンセットロード振興会事務局長)
長崎のまちづくりは橋の歴史にあった
赤星 文生(一社)九州地域づくり協会専務理事)
- 14 島原半島うみやま風景街道が登場
- 15 道の駅×日本風景街道×道守シンポジウム
語ろうみんなで!「三つの輪」～新たな一步へ
木ノ下 結理(道守大分会議事務局)
- 08 海外道事情
ニューヨーク市近郊のリバーサイド・パーク
大都市の自然公園、大河の畔、鳥が群れ遊ぶ道
玉川 孝道(道守九州会議副代表世話人)
- 17 道守人物伝・道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭
インタビュー

SATOSHI ISEDA
伊勢田敏

国土交通省 九州地方整備局局長

今回は、道守九州会議の樗木武代表世話人はじめ九州各県の道守代表の皆さんと一緒に伊勢田敏九州地方整備局局長に活動報告を兼ねてインタビューした。

局長は九州勤務が初めてとか。10月初めに開催した「みちづくし in 佐賀」にご出席いただき、ありがとうございました。今回の九州各地の道守さんたちの活動自慢は、いかがでしたでしょうか。
伊勢田局長 400人を超える道守さんたちが九州各地から参加され、とても盛大でにぎやかな集まりの中で、道守さんが活き活きと楽しみなが自分たちの活動を発

表されているのに感動と敬意を覚えました。九州では総勢5万7千人の道守さんたちが、それぞれの地域で自分たちの住む街をきれいにしようとする清掃活動や花植えに取組まれており、道路を管理する我々は、心から感謝しています。参加者全員が一堂に集まって、総まとめとなった写真は圧巻でしたね。

次回は、長崎の佐世保での開催です。どうぞお出かけください。長崎ではこの度風景街道「島原半島うみやま街道」が登録されました。九州で15番目、長崎県内で2か所目の風景街道となります。道

守活動の一環として風景街道の皆さんと一緒に活動を展開させ、地域がもっと魅力的になるような活動を考えています。

伊勢田局長 道守活動と風景街道との連携は、とても重要なことと考えており、道を舞台に活動される方たちのお陰で、我々の整備した道路が生きて、地域が元気になり、発展することがどんなに素晴らしいことだと思います。

大分では、「道の駅」と風景街道、道守の三者で連携しようと4年ほど前から「三つの輪」の活動を始めました。「道の駅」は地方自治体の管轄と認識している人が多いため、私たちから国土交通省が認定していることを発信していきたいと思っています。

また、最近では自動車専用道路などのネットワーク整備に伴い、地域の国道などの生活道路に面した「道の駅」が大変、厳しい状況になってきています。自動車専用道路、国道、生活道路などの3つの道路をトータル的に考え、地域の魅力を創出し、活性化により繋げるにはこれらの活動がどうあるべきかと考えています。道守さんたちも「風景街道」や「道の駅」は大

きな役割を果たしており、自動車専用道路を降りて寄り道してというという気にさせる仕掛けやきっかけづくりが必要であると考えています。今後は、ますます道守さんを含めて三者の連携が重要になってきますね。道守さんは、地域のリーダーであり消費者であり、発信者でもありますからね。

「道の駅」を身近で見ると、「道の駅」ならではの特徴をPRし、仕掛けを作っていく必要があると感じます。「道の駅」に行かないと買えない品物があったとしても、車を運転できない人がバスを利用してその品物を買うことができるならば、買う人が増えることになり、消費者の利便性を考えることが大切ではないでしょうか。

伊勢田局長 九州の「道の駅」の中には、「道の駅」を地域活性化の拠点とするために、民間のバス会社との連携により、路線バスの

ルートを「道の駅」経由に変更したり、「道の駅」から都市部を行き来する特急バス路線を新設されたところもあります。消費者の利便性を考えるには、関係機関との連携が大切だと考えます。

国土交通省としては、「重点「道の駅」等、「道の駅」の特徴ある取り組みについて、「道の駅」の設置者や道路管理者と連携して取り組みを支援しています。



Connect図について

—平成2年雲仙普賢岳の噴火をはじめ、九州北部豪雨、熊本地震など平成の30年間、九州は災害に苦しんできました。救援、復旧、復興に当たって、道路がいかに大切かを九州の人たちは強く認識しています。さらに南海トラフ巨大地震が想定されていますが、命の道づくり等をどのように考えておられますか。

伊勢田局長 九州は、豪雨・地震・火山噴火などの自然災害が頻発している地域であることは、ご承知のとおりです。現在、熊本地震で寸断された国道57号の北側復旧ルートは、昨年度末に二重峠トンネルが貫通し、国道325号阿蘇大橋ルートでは、橋本体の工事に着手しており、共に2020年度の開通に向け事業を進めているところです。九州北部豪雨では災害復旧等を行っており、大災害からの復旧・復興は整備局の最重要の任務だと考えています。

また、南海トラフ巨大地震・津波の備えとして、橋梁の耐震補強を進めるなど、発災時の救助救命を支える道路ネットワークの確保に今後も努めたいと考えています。

—道守九州会議は発足して15年になります。各地の道守会員が約5万7千人、道守さん達は、「道はみんなの財産」という意識で、「出来るときに出来ることを」をモットーに道守活動を進めています。今後の道守活動に期待するものは？

伊勢田局長 道守は、「平成」の時代に新しい「公」としての芽を出し、「道」にかかわる活動を実施しているNPOや市民団体、企業、個人などを相互にネットワークし、情報交流や情報発信などを通じて、道への関心や愛護の心を育んでい

ただいています。これらの活動は、市民と行政が連携する中で、小中高や大学、沿道店舗や自治会など地域を巻き込み、地域のさらなる発展に「道守」が寄与し、自治体との協働により、道路清掃に合わせ、公園や水路など周辺の清掃が市や町全域の活動に発展し、イベ

ただいています。これらの活動は、市民と行政が連携する中で、小中高や大学、沿道店舗や自治会など地域を巻き込み、地域のさらなる発展に「道守」が寄与し、自治体との協働により、道路清掃に合わせ、公園や水路など周辺の清掃が市や町全域の活動に発展し、イベ

ただいています。これらの活動は、市民と行政が連携する中で、小中高や大学、沿道店舗や自治会など地域を巻き込み、地域のさらなる発展に「道守」が寄与し、自治体との協働により、道路清掃に合わせ、公園や水路など周辺の清掃が市や町全域の活動に発展し、イベ



ント参加者や観光客を心地良い空間でもてなすことに貢献し始めています。
 新たな「令和」の時代においては、継続的なボランティア活動が「みち」のメンテナンスを通じて、地域を動かし、「道守」がまちづくりや地域づくりの「核」となることを望んでいます。
 また、道路における身近な課題の解消や道路利用者のニーズへのきめ細やかな対応などの業務に自発的に取り組む民間団体等を支援する「道路協力団体制度」があります。この制度では、道路空間を活用した収益活動が可能となっており、道守の方々にはこの制度を是非活用して頂き、我々、道路管理者と共に協働・連携した活動ができればと思っています。

九州の高速道路は県庁所在地の循環ネットワークが完成し、大きく進みました。一方で、東九州道の清武からの延伸は、地元で大歓迎されると共に、風景街道の国道220号などの活用が課題になってきました。
 南九州道西回りや中九州道など沿線道路の道の駅など、自動車道と共に地域が活性化、地方創生の道が模索されています。どのような施策が必要か、お聞かせください。
伊勢田局長 高速道路によって、地域が近くなり、新たな観光ルートの形成など、今後益々九州の観光活性化が期待されます。しかし、高速道路の開通により観光客の呼び込みのチャンスである反面「素通り」を心配する声もあります。道の駅は集客、風景街道・道守は地域資源の磨き上げなどそれぞれの特長を生かし、お互いが連携・協働し、道の駅での地域情報を発信し多くの人が観光地や名所に足を伸ばして頂けるよう、地域活性化を図る必要があると考えています。

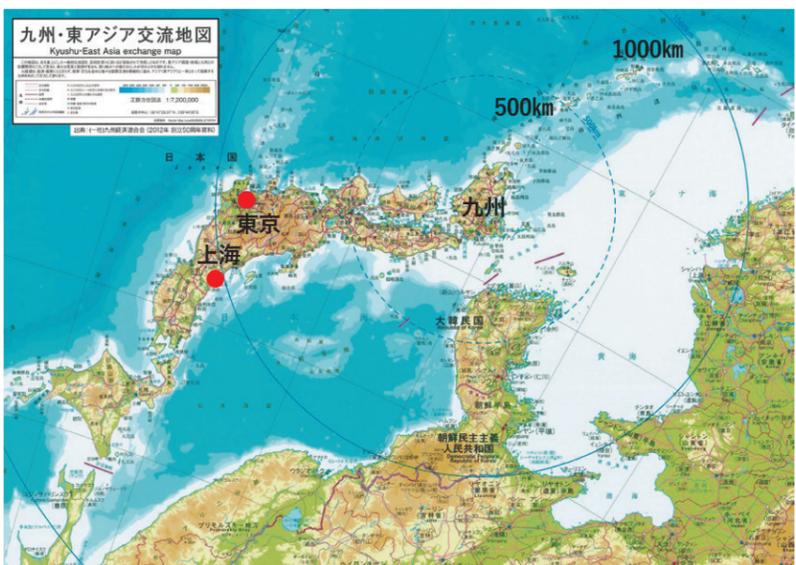


図1 九州・東アジア交流地図 出展:(一社)九州経済連合会(2012年創立50周年資料)

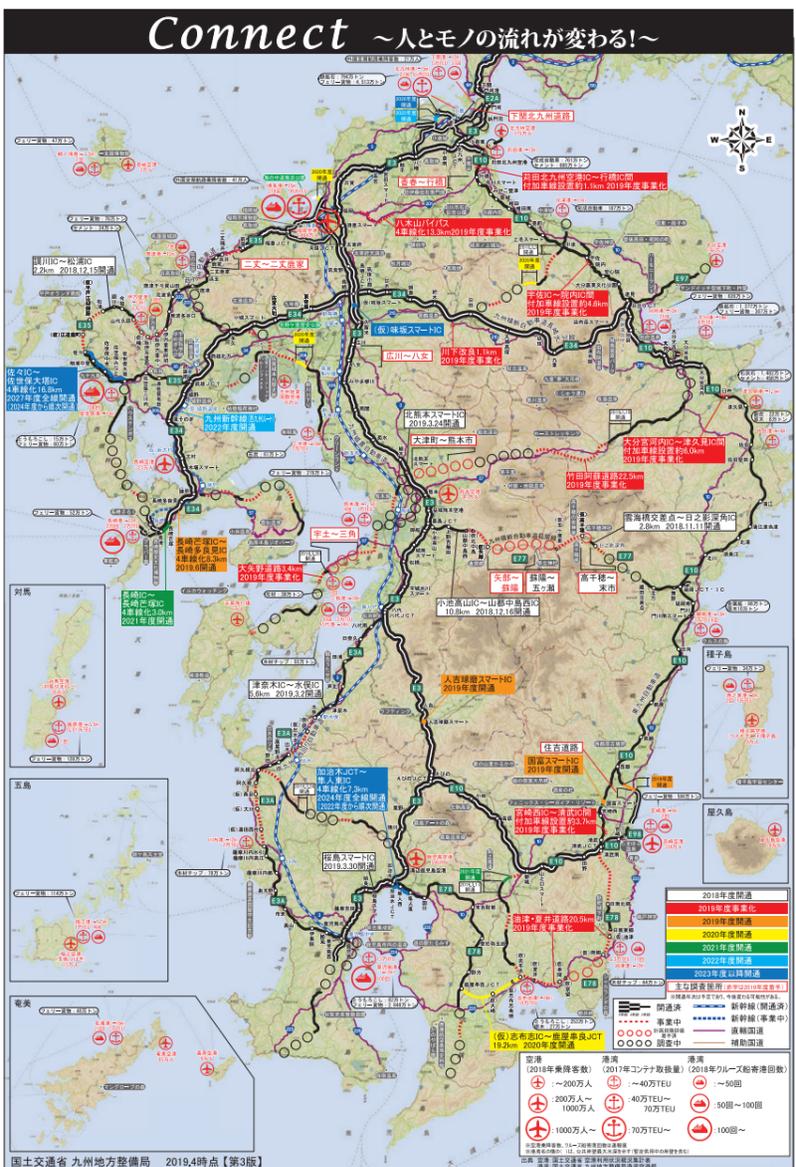


図2 Connect ~人とモノの流れが変わる!~

九州地方整備局では、2018年10月に、将来の九州の人とモノの流れを表したConnect図を作成しました。

九州は日本の西端に位置し、首都東京から西へ約900km離れています。中国の上海からも1000km圏内にあり、東アジアの中心に位置しているといえます。(図1)
 福岡空港の利用者数は年間2400万人と増加し続けており、需要増に対応できるように整備を推進しています。また、東アジアからのインバウンドを中心に、日

本全体に來航するクルーズ船の約4割が九州に寄港(2017年)しています。増大する寄港需要および船舶大型化に

空路、航路、陸路を有機的に連結して、「速達・定時」で人が移動でき、モノが輸送できる交通基盤の整備は、九州の発展

北九州から宮崎までつながり、新たな企業立地や物流、観光の面で開通効果が現れています。
 九州中央部を東西に結ぶ九州横断自動車道延岡線は2018年度に2区間が開通するとともに、五ヶ瀬高千穂道路が新規事業化され、観光振興などの面で大きな効果が期待されています。
 このように空港・港湾や高速道路をはじめとする幹線道路などの整備により、人やモノの流れが大きく変化していることを私たちは実感しています。

陸、海、空の連結図

対応するため、佐世保港、八代港および鹿児島港では、新たなクルーズ専用岸壁の整備を進めています。

の基盤となり、災害への備えとしても重要です。(図2)
 2016年4月には東九州自動車道が

の基盤となり、災害への備えとしても重要です。(図2)
 2016年4月には東九州自動車道が



道守九州会議交流会

みちづくし in 佐賀 2018

「わくわくドキドキ輝く道守」

道守の一人一人が主役

平成15年から九州各県が持ち回りで開催してきた道守九州会議交流会（「みちづくし」）。「みちづくし in 佐賀」で15回目を迎え、2巡目最後、そして平成最後の開催となりました。10月5日佐賀市内のホテルグランデはがくいで開催されました。開催直前に事務局である佐賀国道事務所管内で災害が発生、また、台風25号の接近など開催自体が危ぶまれる中、関係機関のご協力の下、無事に開催することができました（2日目に予定されていた体験学習は台風接近のため中止となりました）。

■交流会

交流会の司会を務めたのは、佐賀大学3年生、「FMメディア研究会」に所属の山口知恵さん。台風接近や災害発生などの影響もありシナリオがなかなか煮詰まらずにハラハラさせてしまいました。交流会は、三原ユキ江実行委員長（道守佐賀会議代表世話人）の主催者挨拶でスタート。今回のテーマである「わくわく



道守九州会議
榑木武代表世話人



三原ユキ江
実行委員長



逢坂謙志
県土整備副部長



伊勢田敏
九州地方整備局長

ドキドキ輝く道守」に対する思いを込めての挨拶となりました。

道守九州会議の榑木武代表世話人の挨拶の後、来賓の国土交通省伊勢田敏九州地方整備局長、佐賀県山口祥義知事（代理・逢坂謙志県土整備副部長）、佐賀県道路愛護協会横尾俊彦会長（多久市長 ビデオメッセージ）から挨拶をいただきました。



■感謝状贈呈・功労者表彰

道守活動に貢献している団体や個人に贈られる功労者表彰、特に顕著な功績または支援が認められる個人・団体に贈られる感謝状の贈呈が行われました。表彰状（感謝状）と併せて記念品「香蘭社のペアフリーカップ」が贈られました。有田焼で艶やかで美しい瑠璃色のラインがアクセントの多用途なペアカップです。



有田焼の老舗
香蘭社製のペアカップ

●感謝状贈呈

福山 貞子さん
多久市長
横尾 俊彦さん

●功労者表彰

道守ふくおか会議
鶴田 政秀さん
道守佐賀会議
徳永 一雄さん
道守長崎会議
福田 伸浩さん
道守くまもと会議
森田 加代子さん
道守大分会議
亀野 辰三さん
道守みやざき会議
齊藤 チツ子さん
道守かごしま会議
東 嗣己さん

■道守よかとこ再発見（ワークショップ）

今回は、開催15回目、2巡目の最後と言うこともあり、九州各地で地道に活動を続けてこられた皆さんの活動にも光を当てました。

各県の道守さんにご協力いただき、「道守よかとこマップ」を制作することにしました。マップの材料となる道守さんの活動情報などは、各県会議のご協力をいただき予め収集しました。

観光マップではなく、皆さんの活動にスポットをあてたマップづくりとなるように心がけました。西ブロック（福岡県・佐賀県・長崎県）、東ブロック（大分県・宮崎県）、南ブロック（熊本県・鹿児島県）の3ブロックに分かれて各マップを眺めながらお互いの活動や近くの見所について自慢し合っていました。各ブロックから選出されたファシリテーターに進行をお願いしました。どの会場も大盛り上がりでした。

西ブロック（福岡県・佐賀県・長崎県）



東ブロック（大分県・宮崎県）



南ブロック（熊本県・鹿児島県）



■自慢マップ披露

休憩でリフレッシュした後は、400名を超える道守さんが一堂に会して、よかとこマップ（全体版）の披露と各ブロックでの意見などの集約が行われました。

- ・目標を持って活動することが継続に繋がる。
- ・マップ化することでお互いを実感し合えた。
- ・「みちづくし」も3巡目に入る。今後に向かって頑張っていきたい。



各団体の活動に光を当てると言う意味においては、今回作成した九州の道守活動全体が把握できるマップだけでなく、今後の道守のファンを増やしていくツールとして活動をまとめた冊子を作ってもらいたい。



ちょっと休憩

嬉野茶と佐賀の銘菓でおもてなし



よさこいサークル「嵐舞(らんぶ)」



道守屋台



活動報告



大会旗受け渡し

「自分おこし」。ボランティアは自分のためにやっていると思ってしまうようにしている。時間を決めずやりたいためにやるというスタンスがボランティアの本来のあり方ではないか。

- ・活動を継続することは大変難しい。発足15年とすることは、15歳年を取っていることにもなる。いかに次の世代にバトンタッチするのか今後の課題。
- ・若い人をどう取り込んで行くかが課題であるが、高齢化社会の中、新たな老人をどう参画させていくかも課題。

■大会宣言

「わくわくドキドキ輝く道守」
今日私たちは、この佐賀の地において、各地域で取り組まれてきた道守活動を知り、その活動をたたえ合い、活動の素晴らしさを再認識し、共感しました。

一人一人が主役であり、今後とも道守の活動が「わくわくドキドキ輝く道守」として活動できることを確認しました。この「輝き」を「道守」のさらなる発展の力とします。

みちづくしin佐賀2018 大会実行委員長 三原ユキ江

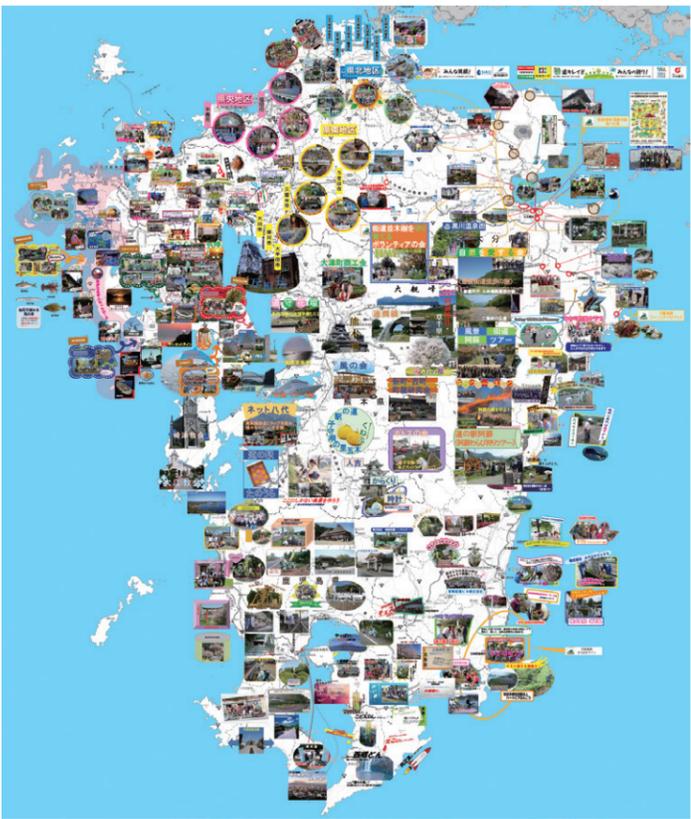


■よかとこマップを制作

開催にあたり、事前に各県会議から、各地域の道守活動や、地域の見所について情報収集をし、それを元に「よかとこマップ」を制作しました。載せるパーツのデザインは各県にお任せ。各県毎に地域の特色が出ていると思います。

■道守冊子も

ご意見として頂きました皆さんの道守活動やご当地の見所をご紹介します。九州各地の仲間を取り組みを共有したり、新たな仲間づくりのツールとしてご利用いただけたらと思います。



■交流集会

交流会が終われば、皆さんお待ちかねの交流集会の始まり。同ホテルの1Fに場所を移して17:00からスタート。司会は、道守佐賀会議の田中妙子副代表世話人と同会員の石井那知さん。

駆けつけてくださった山口祥義佐賀県知事の軽快な挨拶でスタート。乾杯は秀島敏行佐賀市長が、佐賀県乾杯条例により日本酒で乾杯。しばしの歓談のあとは、佐賀大学のよさこいサークル「嵐舞(らんぶ)」によるアトラクションで景気づけ。ボルテージも一気に上がり、会場がひとつに。

今回から新たに道守応援団として加わることになったNEXCO西日本からのあいさつのあとは、恒例の各県道守会議によるPR合戦。毎年、各県趣向を凝らした活動報告がみどころ。



NEXCO西日本 廣畑浩司九州支社長

山口祥義佐賀県知事

九州地方整備局 前佛和秀道路部長

秀島敏行佐賀市長

次回のみちづくしは佐世保市での開催です。



2013年は長崎市での開催でしたが、今回は佐世保市での開催となります。

現在、実行委員会を立ち上げ実施内容を検討している段階ですが、ホスピタリティあふれる企画・運営を行いたいと思っています。

また、2日目の現地体験学習については、佐世保らしさを活かしたコースをご準備してお待ちしていますので、是非、佐世保市へいらしてください。

開催日：2019年10月25日(金)、26日(土)
会場：アルカス SASEBO (長崎県佐世保市三浦町2-3)



道守みやざき交流会の様子

宮崎 地域から報告 道守みやざき会議

トワーク協議会と協働で、2018年12月8日(土)から9日(日)の2日間にわたり「道守みやざき交流会」を日

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

道守みやざき会議では、年1回、県内の道守さんたちの学習会と交流会を兼ねたイベントを開催しています。今年度は宮崎県地域づくりネットワークの細島地区で開催し約80名の宮崎県内の道守会員が参加しました。基調講演には法政大学名誉教授で地域づくり団体全国協議会の会長である岡崎昌之氏を講師に迎え「地域づくり課題の変容と地域づくり団体」というテーマで、全国の事例を基に人材育成の必要性、災害発生時の地域コミュニティの大切さなどについて語っていただきました。開催地である日向市細島地区は、様々な取り組みを行っており、宮崎県内でも元気なコミュニティが確立されている港町です。今回は美々津地区が行っている地域住民の取り組みを5つの分科会で体験したのち、参加者全員で水銀灯にフラワーハンギングを設置する道守活動を行いました。道守活動と地域づくり団体と道の駅との連携の重要性についてのパネル・ディスカッション、夜は地元の方が用意してくださった海の幸で大盛り上がりの交流会で親睦を深めました。9日は、地域活動の事例発表として、日向ひよつとこ夏祭り実行委員会実行委員長の岩本倫尚氏による



完成したフラワーハンギングバスケット



道守活動の様子

「なぜ、ひよつとこ踊りが地域を元気にするのか」について発表いただきました。2日間を通じて、地域のことを知り、関係づくりと道守活動の充実が図れました。(事務局長 石田達也)

宮崎 (株)西部技建コンサルタント(宮崎市)

宮崎



技術者が取り組む道守活動

弊社は、宮崎支店のあります宮崎市大塚町の宮崎大橋 国道10号と県道17号線の交差点付近を、月1回程度道守活動をしています。活動内容は歩道のゴミ拾いや除草です。ゴミの量も開始時と比べると少なくなつたような気がします。車はもちろん、自転車・歩行者の方も多く利用されるため、通行の邪魔にならない様に安全に気を配りながら取り組んでいます。また、弊社は建設コンサルタントとして、日頃より社会資本整備に関する仕事に従事しております。社員一同、道路や橋梁に異常がないか確認しながら、美化活動を行っています。道守活動を始めて、まだ年数は浅いのですが、交流会や案内いただく活動等に参加させていただき、各地で活躍されている道守の皆さまに刺激をいただいています。地域・道路利用者に寄り添いながら末永く道守活動を行う企業として邁進してまいります。今回、道守通信に掲載の機会を与えてくださいました。道守みやざき会議事務局の方々に心からお礼申し上げます。(宮崎支店 村角瑠子)



宮崎大橋 橋上にて



国道10号にて活動の様子

わたしの好きな道

自転車のまち佐賀市のシンボルロード

～紡績通り、佐大通り～

佐賀市に住み始めて20年以上経つが、最初の頃のまちの印象として、とにかく地形の起伏がなく平坦であることに驚いたことを今でも鮮明に覚えている。それに加え、自転車で通勤・通学している人の多いこと、さらに、いわゆる「ママチャリ」(シティサイクル)と呼ばれる変速機の付いていない自転車に乗っている人が多いことが印象的であった。その当時、私はまだ学生で自動車は持っておらず、移動手段は基本的に自転車であったが、暮らして始めてみると自転車で佐賀市内のあらゆる所に容易に行けることを実感することができた。それまで地形の起伏の多い場所しか暮らしたことがなかった私にとっては衝撃的であるとともに、佐賀の地形がとても自転車に優しいということに気づかされた。一方で、道路に関していえば幅員の狭い道路も多く、自転車を運転し辛いという印象も同時に抱いていた。さて、私の好きな道だが、佐賀市内市街地を南北に走る紡績通りから佐大通り(国道264号線、県道54号線、県道260号線)を取り上げたい。この通りは、もともと片側一車線で、路肩や歩道も狭く自転車では走りにくい道であった。さらに、佐賀駅と大学や高校を結ぶルートの一部でもあり、通勤・通学時には多くの自転車が通る道でもある。現在は、片側2車線の道路に拡張され、さらに歩道も十分に広い。特筆すべきは双方向の自転車道が車線両側に整備されていることである。これにより、多くの自転車利用者が快適に走行できる環境が整い、自転車のまち佐賀の象徴的な道路となっている。佐賀市は平成29年3月に、「佐賀市自転車利用環境整備計画」を策定しており、佐賀市内の自転車利用の促進に向けた自転車利用空間ネットワークの構築に取り組んでいる。私もその計画の策定に当たり検討会議の議長として携わらせていただいたが、財源的な制約もあり、残念ながらすぐに全ての計画内容が実現する訳ではない。しかしながら、先行して実施された紡績通りから佐大通りの自転車道整備が試金石となり、地形が平坦であるという佐賀のポテンシャルを最大限に活かした自転車に優しい道路ネットワークを持ったまちが実現することを期待している。微力ながら、私もその実現に尽力していきたいと思う。



プロフィール
猪八重 拓郎 (いのへえ・たくろう)
佐賀県佐賀市在住
佐賀大学理工学部准教授
都市計画の視点から都市構造を調査研究

けやき通り発展期成会(福岡市)

福岡



けやき通り発展期成会(福岡市)
けやき通り発展期成会(福岡市)
けやき通り発展期成会(福岡市)

けやき通りの「けやき」は樹齢七十年くらいになります。中には「腐朽菌」という細菌に侵され、折れやすくなっている樹があるので、年に二本程度を植え替えています。全部で百本あるので、五十年かかります。急にたくさん植え替えると、景観が変わってしまうので、このペースにしています。植え替える樹は十歳のものにしています。そして地元の小学四年生に植樹を手伝ってもらっています。一年を通して、授業で通りの勉強をしており、植樹祭がフィナーレです。同じ十歳の樹を植えることで、自分の樹として愛着をもってもらいたいと思い、始めてから十年経ちました。小学生だった子供達が中学に上がり、自らボランティアで通りの清掃してくれるようになりました。子供達が地元への愛着と公共心をもってくれるようになり、嬉しく感じています。

また、清掃や花植などの活動に加え、新しい建物について、色を揃える、セッティングする、扉を作らないなど、協力をお願いすることで、通りの景観が揃い、圧迫感のない空間になるよう活動しています。

(事務局 草野寿康)



春と秋の花植



けやきの植樹祭



福岡国際マラソン前のボランティア清掃

熊本



道守くまもと会議

熊本大地震と道守活動

熊本大地震を経て満2年。地域では、「がんばろう熊本」を合言葉に復興中だ。熊本地震で家屋はもちろんだ、道路や堤防、橋、公園、花壇など、あちこちが壊れた。道守の仲間も、家を失ったり職場を失いボランティア活動に参加することが出来なくなったりした人もいます。今、活動を続けている人たちは、被災を免れた人だ。大地震の後、半年ほど経過し、ライフラインも落ち着き普通の生活を取り戻した頃、有志で道守活動を再開した。野辺に咲き乱れる草花が、地震で被災した人々を癒した。熊本では大地震前と後で全てがガラリと変わってしまった。地震の前にはやってきた活動を行い、「普通のこと」ができる喜びを感じた。

しかし、その後、余震、たつまき、台風など災害が続いている。熊本大地震の後、九州北部豪雨、西日本豪雨、北海道地震、と日本中に災害が発生している。私たちの仲間も、あちこちの災害ボランティアに参加している。

熊本大地震は、地域の風景を一変させた。熊本城をはじめ県内各地の多くの歴史的建造物が失われた。私たちの道守活動は小さな積み重ねだが、その精神は地域に根付き、今では災害ボランティアの一翼も担うようになった。花を植える行為や清掃活動が、地域でのボランティアの心を醸成し確実に発展していることを感じている。沢山の災害が頻発するようになった今、ボランティアの活動が地域を支える原動力になっていると思う。

「取り戻そう熊本の風景！」
地震、台風、火災等色々な災害が発生する。しかし、地震という災害が一番怖い。突然、地鳴りがして大地が揺れ動き、防ぎようがないからだ。これからも、地震を耐え抜いた仲間たちと、一緒に活動を続けたいと思う。地震前の熊本の風景が戻ってくることを祈りながら。

(事務局長 中村幸子)

佐賀



NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE(唐津市)

クロマツのトンネルのような道

日本三大松原の一つであり、国内の松原で唯一「特別名勝」に指定されている虹の松原。約400年前に防風防潮林としてクロマツを植林したのが始まりだと言われています。本来、「白砂青松」という風光明媚な日本古来の風景として愛されてきましたが、近年はごみの不法投棄、雑草や広葉樹の繁茂によって、荒廃が進んでいます。私たちNPO法人KANNEでは、地域の皆さんのボランティア活動を支援し、一緒になって松葉かきや除草作業を進めています。また、地域の学校では環境学習の一環として、次世代を担う子供たちと一緒に活動を行っています。

虹の松原の中を通る県道347号線を通ったことはありますか？道路わきにそびえ立つクロマツの間を縫うように走る、まるでクロマツのトンネルのような道です。玄界灘風景街道の一部でもあるこの道から見える虹の松原が、美しい「白砂青松の虹の松原」となるよう、国、県、市、地域の皆さんと一緒に活動を進めていきたいと思っています。

(事務局長 藤田和歌子)



虹の松原保護対策協議会



玄界灘風景街道
クロマツのトンネル



近隣の子供たち
松葉かき

大分



上人ヶ浜町自治会(別府市)

ようこそ 泉都別府へ
花と一緒に遊ぼう！

別府市上人ヶ浜町は国道10号線沿いの観光都市別府の市街地入り口で、この場所に従前の旧国道と新道のバイパスとの分岐点に「上人ヶ浜」交差点があり、この広い三角形の空き地を利用して、まず平成30年3月に「国道10号線道守花壇」を造ることと残りの空き地に順次花壇を作っていく3カ年計画を自治会で決めました。

昨年3月に造った花壇は外周に芝桜、内円にハイジャクシンやランキュラスなどの多年草を中心に植栽、同年の春には綺麗な花が見事に咲きました。私達は月に2回の水やりと除草の単純作業を当番制で数人交替で活動していますが、作業中に信号停車の車の中から「ありがとう」とか「綺麗ですよ」と声を掛けられることも嬉しくなりました。

別府市は全国でも有名な温泉地で観光客も多く、加えて今年は大分ワールドカップ2019日本大会が開催され、試合の観戦客も多いと予想されます。地元は勿論、内外問わず多くの皆さんに鑑賞して頂くことを願って今後もこの活動を継続していきます。

(会長 阿部修司)



桜のデザインを施した
オシャレなイングリッシュガーデン



自治会・道守・風景街道・
大分県うつくし作戦・事務局が参加！

長崎



長崎オランダ村花の街づくりチーム西海市

花の街づくりから
つながる道守活動

私達は、長崎オランダ村を基点にガーデニング、ハングングバスケットマスターの資格取得など数々の学びの中、コンクールへの出展や市内外のイベントにおける花飾りを続けてきました。

当初は「道守」の事は知らなかったのですが、西海市大島町の「環境美化を考える会」の田口昭子代表に声をかけていただき「道守」の事を知り、「道に感謝」「道を愛する」等、考えたり自覚した事が無かったことに気付かされました。

これまで地道に積み上げ続けてきた活動は、道守活動にも通じるところがあるので、今までの経験を活かしながら、更に活動範囲を長崎市と佐世保市を結ぶ国道206号、県道、市道へと広げ、美化活動だけではなく啓発活動にもより一層取り組みたいと思っています。

私達は本当にここからがスタートです。

「デイネーター」長谷川千幸



長崎オランダ村での
ガーデニング



国道206号沿いの植栽帯で花植え活動

鹿児島



株コバルト技建(志布志市)

気持ちよく走れる九州道を目指して

株コバルト技建は、「国土保全と地域社会への貢献」を合言葉に清掃ボランティア活動を展開しています。2018年9月7日、宮崎の国道を皮切りに、9月25日熊本地区、10月12日及び10月22日鹿児島地区、11月12日長崎地区の国道(歩道部)一斉清掃を行いました。又、九州北部豪雨災害ボランティア活動にも参加いたしました。昨年は、「みちづくしin佐賀2018」にも7名が参加し、道守活動と清掃への認識を新たに致しました。これからも、気持ちよく走れる九州道を目指して清掃活動や社会貢献に努めたいと考えております。

ゴミ内訳では、多いのは、たばこの吸殻、弁当の空き箱、紙くずなどでした。(鹿児島支店長 郡山貞次)



一般国道220号沿いの清掃活動



一般国道10号沿いの清掃活動

橋、道を語る人材を

道守長崎会議や風景街道「ながさきサンセットロード」は国土交通省長崎河川国道事務所と協力し、長崎大学の岡林隆敏名誉教授に講師となってもらい「道の語り部養成講座」を実施しました。

岡林先生は島原半島においてインフラツーリズムのツアーを計画・実施されるなど、社会資本の歴史的な遺構の価値や保存していく意義を伝える活動を活発にされており、今回の語り部の育成にも快く協力していただくことになった。

この講座は街づくりと社会資本整備との関係を歴史的な観点から習得し、伝える人材の育成であるため、地域

の土木技術者を対象にした。

平成31年1月19日、蛭茶屋電停付近の長崎街道をスタートし、中島川沿いを上流から橋をめぐり、昔の町を想像しながら橋の特徴や道路の変遷を聞き、江戸時代からの長崎の街づくりの発展が想像できた。

「写真1」は蛭茶屋電停付近のスタート地点での岡林先生の説明と注意事項の確認を行い、長崎街道を市内へ歩いた。「写真2」は有名な眼鏡橋を下から観察し、アーチ式石橋の構造的に優れた特徴を教えていただいた。「写真3」は出島橋。供用中の鉄の橋として日本で最古であり、リベット接合のトラス橋である。「写真4」は出島の復元の一環として出島表門橋として数年前に完成した。「写真5」は中島川の終点の大波止にかかる大波止橋。これは



写真1 蛭茶屋を出発



写真2 眼鏡橋



写真3 日本最古の供用中の鉄橋「出島橋」



写真4 出島表門橋



写真5 大波止橋の見える出島岸壁で解散



●プロフィール
むらさと しずのり
村里 静則
ながさきサンセットロード振興会事務局長

アーチ式の一面張りトラス橋である。

今回は土木関係者の語り部養成だったが、今後は一般市民に参加を募り、養成した語り部から一般市民へ、その地域の社会資本の歴史や重要性を伝えて行くことが必要である。

またサンセットロードの問題として、ルート沿線各地域（松浦市、平戸市、佐々町、佐世保市、西海市）の語り部養成については、その地域の人材を発掘し、積極的に参画してもらうようにしていきたい。

長崎の橋めぐり
インフラツアー

道の語り部を養成しよう

長崎のまちづくりは橋の歴史にあった

橋の生い立ちから「まちづくり」の系譜

九州地域づくり協会では、土木遺産の発掘調査を平成十七年から始めました。趣旨は、先人達によりその時の技術や知恵を結集し次代のために築造された土木施設の偉業と匠の技を一般に公開し、その価値観を広く啓発していくものです。その数も二百五十を超え、ホームページに公開する一方で「活かす、継ぐ、学ぶ」をサブテーマに《土木技術の見える化と継承》を試みています。その一企画として土木遺産を訪ねる冊子づくりを九州全体で進める予定です。その最初のプロモート地を《橋の技術は西から》をもとに長崎を選び、旧長崎街道とその周辺に築造された橋の生い立ちからまちづくりの系譜を学ぶ「橋めぐりツアー（語り部養成講座）」に参加しました(約40名参加)。師



岡林先生の説明に聴き入る参加者

匠は長崎大学の岡林名誉教授です。さながら、某テレビ局のブラ○○○にどこか似た講座イメージを抱きました。開催日は一月十九日(土)。午後に蛭茶屋を出発し、大波止まで当時を回想し

つつ、中島川に架かる個性ある多くの橋を巡る四時間コースでした。

まず、市街地の玄関口にあたる一之橋。戦前に築造された当時の姿と戦前の繁栄を物語る鉄筋コンクリートアーチ橋の重厚さにひとしきり魅入りました。続いては江戸元禄期にその築造が始まった中島川石橋群です。

各々の石橋には、文化性を考えた木橋の時代もあり、そして氾濫のリスクに対する構造の工夫がなされていきました。その中でも、水害に耐えた強靱な「眼鏡橋」は長崎を代表する観光

スポットです。近くには氾濫防止対策のバイパス水路を望めます。下流には耐久性重視の鉄橋そして腐食に強い鉄筋コンクリート橋と、景観に見合う構造美や更新技術の変遷を垣間見ることが出来ます。いよいよ潮の香りが近くなってきました。

観光客で賑わう出島の袂で、米国から輸入した錬鉄を加工し組み立てられた出



一之橋



奥に眼鏡橋、手前バイパス水路



眼鏡橋



出島橋

島橋と出会います。中島川の流路変更により明治期に移設された橋で、特徴は大きなポルト接合です。我が国における鉄製トラスの初期を物語る最古の橋です。さて、今回の橋めぐりを通しての感想です。我が国で唯一開かれた港と中央を結ぶ幹道整備に必要な橋の生い立ち、中島川に石橋・鉄橋そして鉄筋コンクリート橋が架けられ更新された意図と、達成のためにあらゆる技術と知恵を結集したことを学び、橋の歴史なくして長崎のまちづくりは語れないと思いました。

だからこそ、多くの語り部を養成し継承する必要があるでしょう。

結びに、長崎は今日も晴れてました。



●プロフィール
あかし ふみよ
赤星 文生
(一社)九州地域づくり協会専務理事。平成27年3月まで整備局道路部に勤務

～道守通信 vol.36春号へ協賛いただいた皆様(団体・企業)～

※順不同

小田開発工業(株)	(株)友岡組	(株)高山組
九州建設コンサルタント(株)		

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力(株)
(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	(一社)日本道路建設業協会 九州支部	福岡市道路利用者会議
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	(株)大林組 九州支店
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設(株) 九州支店
(一社)大分県建設業協会	大分県土木建築協会	大成建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設(株)
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	西日本高速道路(株) 九州支社
日新興業(株)	九州技術支援協議会	(株)九州建設マネジメントセンター
(株)熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州(株)	西日本高速道路メンテナンス九州(株)
みちを考える会	朝日開発コンサルタンツ(株)	旭建設(株)
朝日工業(株)	朝日テクノ(株)	(株)アジア技術コンサルタンツ
(株)アップス	(株)安部日鋼工業 九州支店	(株)安藤・間 九州支店
鳥城塗装工業(株)	(株)エスイー 九州支店	NTT インフラネット(株) 福岡支店
NTT インフラネット(株) 熊本支店	NTT インフラネット(株) 鹿児島支店	扇精光コンサルタンツ(株)
大分瓦斯(株)	大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会
大分交通(株)	(株)大島造船所 九州営業所	(株)荻島組
(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	鹿児島土木設計(株)	(株)片平新日本技研 福岡支店
上内電気(株)	川田建設(株) 九州支店	(株)カンドー 九州支店
九建設計(株)	(株)九州開発エンジニアリング	九州建設コンサルタント(株)
九州地区道路利用者会議	九州みちの会	協同エンジニアリング(株)
(株)橋梁コンサルタント 西日本支社	(株)建設環境研究所 九州支社	(株)建設技術研究所 九州支社
(株)建設技術コンサルタンツ	(株)建設技術センター	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部
コーアツ工業(株)	(株)国土開発コンサルタント	(株)駒井ハルテック 九州営業所
(株)西海建設	西部ガス(株)	(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
(株)サタコンサルタンツ	三州技術コンサルタント(株)	昭和コンクリート工業(株) 九州支店
新成建設(株)	(株)新日本技術コンサルタント	(株)親和コンサルタント
(株)末宗組	(株)西部技建コンサルタント	(株)センコー企画
(株)総合技術コンサルタント 九州支店	そうじの会(多久の未来を創る会)	(有)測量企画センター
(株)そよかぜ館(「道の駅大和」)	大日本コンサルタント(株) 九州支社	大福コンサルタント(株)
太陽技術コンサルタント(株)	(株)高山組	瀧上工業(株)
宅島建設(株)	谷川建設工業(株)	(株)玉の湯
(株)地域科学研究所	中央コンサルタンツ(株) 福岡支店	中央復建コンサルタンツ(株)
(株)長大 福岡支社	(株)長大テック 福岡支店	通信土木コンサルタント(株) 九州支店
(株)東亜コンサルタント	東急建設(株) 九州支店	(株)東京建設コンサルタント 九州支社
(株)東豊開発コンサルタント	利光建設工業(株)	戸田建設(株) 九州支店
(株)友岡組	(株)友岡建設	(株)名村造船所 福岡営業所
南生建設(株)	(株)西九州道路	西日本技術開発(株)
西日本建技(株)	西日本コンサルタント(株)	西日本コントラクト(株)
(株)日建コンサルタント	日鉄鉦コンサルタント(株) 福岡支店	日本軌道工業(株)
(一財)日本造園修景協会 大分県支部	日本地研(株)	(株)野村建設
葉隠会道守部会	(株)萩原技研	パシフィックコンサルタンツ(株) 九州支社
(株)ピーエス三菱	(株)日高時計本店	(株)福山コンサルタント
(株)富士設計	(株)富士ピー・エス	(株)ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)
復建調査設計(株) 九州支社	前田建設工業(株) 九州支店	松尾建設(株)
松本技術コンサルタント(株)	(株)丸福建設	(株)水野建設コンサルタント
(有)道の駅みえ	宮崎空港ビル(株)	(株)宮崎産業開発
宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所	八千代エンジニアリング(株) 九州支店	(株)ヤマウ
(株)ヤマックス	龍南建設(株)	(株)ワンステップ
個人会員71名		



発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
平成31年4月発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅前2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp